よろこび

日蓮宗 顕聖会

本　山　妙顕寺
長音山　本蓮寺

『よろこび』９

貫首　齊藤　日軌

わたくしたちは、一人一人が久遠本仏さまの分身子供たちです。本仏さまは、私たちの親ですから、人類一人一人のことを心にかけ、事故に遭わないように、立派に成長するように、俱生神（守護霊指導霊）様を通して面倒を見てくださいます。それもこれも、本仏の子供である私達が立派に成長し他の子どもたちと助け合って、この世をすばらしい楽土にするよう努力してほしいからです。この世を浄土という楽土にして、みんなが幸せに暮らしてほしいと言うのが御本仏の願いです。私達の魂は本仏からこの本願を本願と言います。ですから、私達は、幸福な家庭、社会、日本を創っていこうと、みんなが思っているのです。しかし、私達は、自分の幸福を各自がそれぞれ求める余り、他人の利害と対立し、仲違い、喧嘩やいじめが起こります。あるいはテロや戦争まで起こります。本仏様は、南無妙法蓮華経と唱えて中道という法の下にみんなが仲良く、幸せになるよう願っています。

みおしえ

以前、韓国の通度寺を研究のため訪れたとき立派なお釈迦様のお像がありました。このお釈迦様は法華経をお説きになった寿量御本仏様でした。金箔が美しくほどこされ新しい仏像のように見えましたが、心の眼で見るとずいぶん古い時代に造立された仏様です。心で仏様とお話しすると、仏様は「私は人々の幸せのため仏法による平和な世界を建設するため、法華経を説きました」とおっしゃっているようでした。

世界は、宗教的対立、民族主義、経済格差等様々な理由でテロや空爆等の戦争状態にあります。よろこびを謳歌し平和な楽土で互いに仲良く暮らすべき人類が相争っています。この世界にどのようにして平和をもたらすことができるのでしょう。仏様は、中道という理念を根本としたルール、法による統治、仏国土経営を目指されたのです。自分たちだけの主義主張、正義では、平和は実現しません。互いに譲り合い助けわねば、私達は生存できません。地球環境も次の世代のことも考えて守らねば私達の子孫は生存できなくなります。

心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え、中道を根本とし、人と相和し生活しようその中によろこびがある。